

第2章 勝山市の景観の特性

1. 霊峰白山を後背に稜線が重なる雄大な山並みの眺望景観

勝山市の景観は、遠景や背景となる山並みと、中景、近景にある集落や田園の風景を一体に眺めることができるパノラマ状の「眺望景観」が大きな特徴であり、魅力となっています（写真2-1～写真2-4）。

勝山盆地の中には、市街地の周りに田園地域が広がり、田園集落が点在しています。また、右図に示すように、勝山市は雄大な九頭竜川が市街地に沿って流れ、北部の加越山地と南部の越前中央山地の山々に囲まれ、いろいろな方面からの眺望景観が広がっています。勝山市の主な眺望景観の視点場の位置図をP9 図2-3に示します。

特に九頭竜川の左岸側から見る加越山地の白山方向には、農村集落と田園風景が広がり、越前甲（大日山）、取立山、法恩寺山など標高1,000m級の雄大な山並みの稜線が連なり、さらに、その後背に霊峰白山がそびえる、パノラマ状の眺望景観が展開されています（写真2-1）。

また、勝山橋周辺においては、北に越前甲（大日山）、東に大師山と越前大仏、南に荒島岳が望め、九頭竜川、弁天緑地と一体となった眺望景観が展開します（写真2-5、写真2-6）。

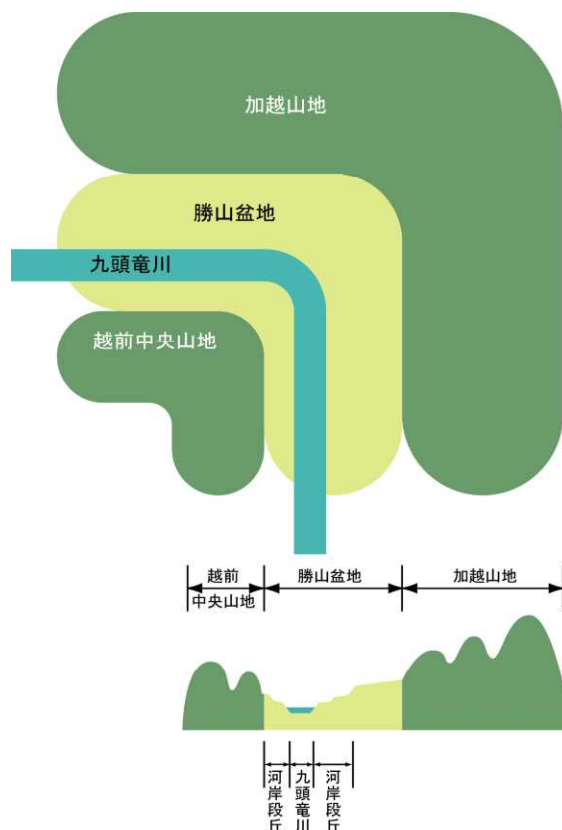


図2-1. 勝山市における3つの大きな地形区分図



写真2-1. 鹿谷町保田^{ほた}から見る白山方面（図2-3 眺望景観②）

さらに、福井方面からのえちぜん鉄道に乗って勝山市に入ってくると、九頭竜川が流れ、霊峰白山を後背に面的に広がる田園集落と雄大な山並みの稜線が連なる、四季折々の風景を眺めることができます（写真2-7）。この風景は、全国的にも高く評価され、平成20年（2008）「日本の鉄道車窓絶景100選（新潮社）」の一つに選定されました。

こうした勝山市に展開する景観は世界的にも評価され、平成19年（2007）アメリカの経済誌 Forbes※において、勝山市は日本で唯一「The World's Cleanest Cities（世界で最もクリーンな都市ランキングトップ25）」に選定されています。

※Forbes（フォーブス）：平成19年（2007）にアメリカの経済紙フォーブス電子版で、勝山市は世界で9番目、アジアでは最もクリーンなまちとして掲載された。



写真 2-2. 三室山から見る市街地や越前甲（大日山）方面
（図 2-3 眺望景観⑰）



写真 2-3. 勝山城博物館から見る市街地方面
（図 2-3 眺望景観⑭）



写真 2-4. りゅうたに龍谷公園から見る市街地方面
（図 2-3 眺望景観⑧）



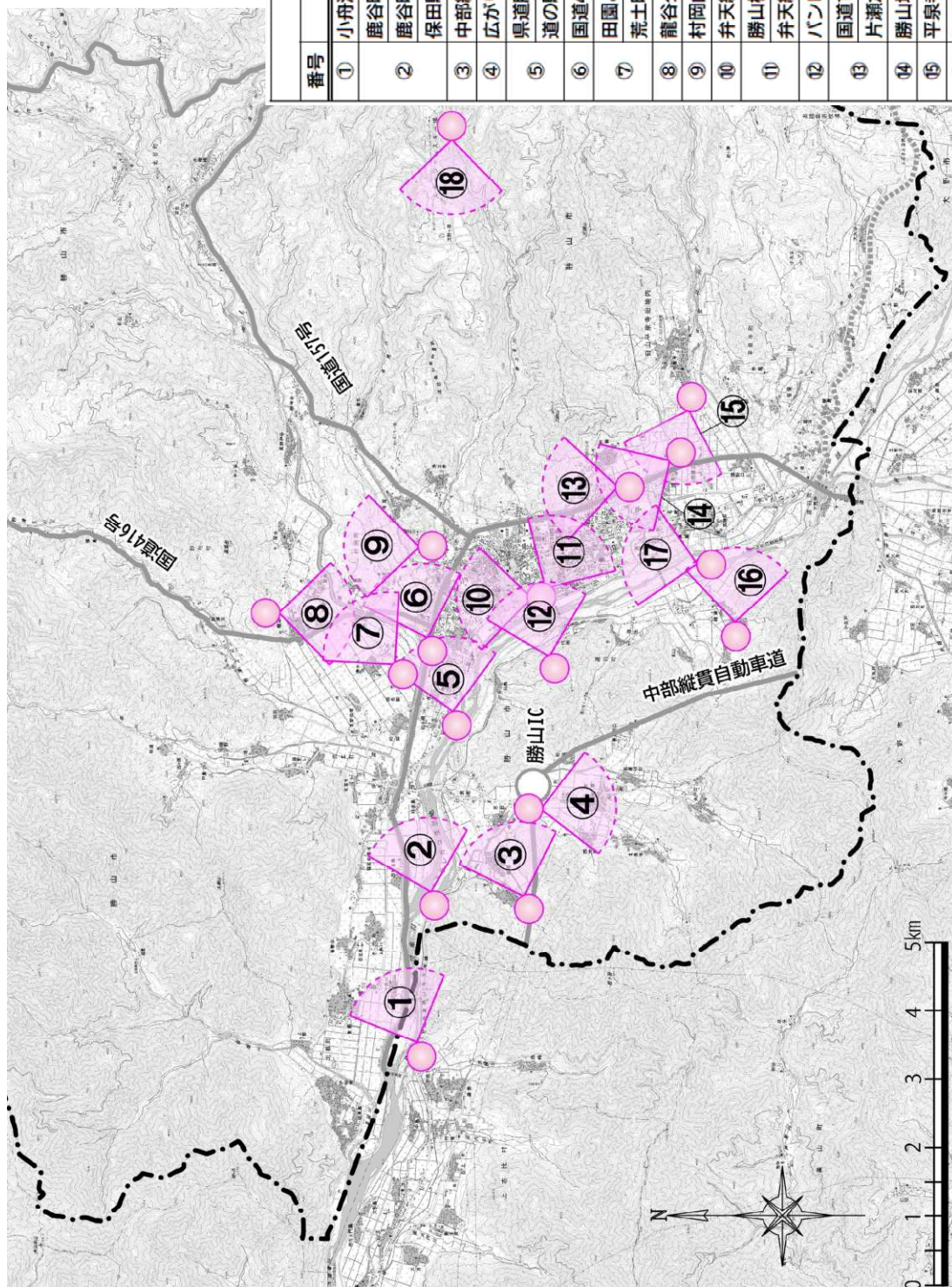
写真 2-5. 弁天緑地から見る越前甲（大日山）
（図 2-3 眺望景観⑩）



写真 2-6. 勝山橋から見る大師山と越前大仏
（図 2-3 眺望景観⑪）



写真 2-7. こぶなど小舟渡駅周辺から見る白山方面
（図 2-3 眺望景観①）



勝山市の主な眺望景観	
番号	眺望景観写真真名と掲載ページ
①	小舟渡駅周辺から見る白山方面 (P 8) (P 50)
②	唐谷町保田から見る白山方面 (P 7) (P 27)
③	唐谷町保田から見る九頭竜川 (P 31)
④	保田駅周辺から見る白山方面 (P 50)
⑤	中部縦貫自動車道から見る白山方面 (P 48)
⑥	広がりのある田園の中の集落 (P 48)
⑦	県道勝山インター線から見る加越山地 (P 33)
⑧	道の駅「恐竜渓谷かつやま」と背後に広がる白山連峰 (P 51)
⑨	国道416号から見る加越山地 (P 47)
⑩	田園と布市集落と越前甲 (大日山) (P 29)
⑪	荒土町布市の水田 (P 81)
⑫	龍谷公園から見る市街地方面 (P 8) (P 16)
⑬	村岡山から見るかつやま恐竜の森(長尾山総合公園) (P 37)
⑭	弁天緑地から見る越前甲(大日山) (P 8) (P 49)
⑮	勝山橋から見る大師山と越前大仏 (P 8)
⑯	弁天緑地から見る荒島岳 (P 49)
⑰	パンビラインから見る九頭竜川と市街地 (P 37)
⑱	国道157号から見る越前大仏 (P 47)
⑳	片瀬から見る越前大仏と大師山 (P 50)
㉑	勝山城博物館から見る市街地方面 (P 8)
㉒	平泉寺町平泉寺から見る勝山城博物館と田園 (P 37) (P 50)
㉓	連羽町大袋から見る経ヶ岳(白山国立公園) (P 10)
㉔	三室山から見る市街地や越前甲(大日山)方面 (P 8)
㉕	法恩寺山リゾート地から見る勝山盆地 (P 35) (P 46)

図 2-3. 勝山市の主な眺望景観の視点場 位置図

2. 見て触れて感じることができる自然景観

(1) 地形

勝山市は、北部の加越山地と南部の越前中央山地に囲まれた盆地にあり、高低差に富んだ多彩な自然景観が展開しています。

西部から東部の市境を構成する加越山地は、西から浄法寺山、越前甲（大日山）、ミズバショウが自生することで有名な取立山、法恩寺山や経ヶ岳等、標高 1,000m以上の山々から構成されており、一部白山国立公園や奥越高原県立自然公園に指定されています（写真 2-8、写真 2-9）。

越前中央山地は、加越山地より一段低い標高 700m以下の山々からなり、大野市や福井市（旧美山町）の山々との稜線の重なりが美しい自然景観を形成しています。

勝山盆地は、九頭竜川の氾濫原や河岸段丘崖、滝波川や女神川等の河川の扇状地で、中央部を流れる九頭竜川まで東西に緩やかな傾斜が続いています。また、盆地内には三室山や村岡山など、島状の小丘もあります（写真 2-10）。勝山市の特徴である九頭竜川の河岸段丘崖は、七里壁と呼ばれ、河岸段丘崖の上と下を結ぶ坂道も見られます（写真 2-11）。



写真 2-8. 遅羽町大袋から見る経ヶ岳（白山国立公園）

（図 2-3 眺望景観⑩）



写真 2-9. 加越山地のひとつである赤兎山



写真 2-10. 三室山



写真 2-11. 九頭竜川の河岸段丘崖である七里壁

(2) 地質（恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク※）

手取層群が広がる北谷町杉山地域一帯は、昭和63年(1988)に1億2千万年前の肉食恐竜の化石等が発見されて以来、全国でも貴重な恐竜化石の宝庫としてクローズアップされています。

この他、法恩寺山、経ヶ岳周辺に見られる火山活動の地形や、河岸段丘崖、七里壁、大清水など豊富な地質・地形遺産（ジオサイト）を有していることから、平成21年(2009)年に日本ジオパーク委員会※より「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」の認定を受けました。これらも勝山市独自の景観特性となっています（写真2-13、写真2-14）。ジオサイトの一覧表を参考資料-10に示します。

大矢谷白山神社には高さ20mを超える巨岩塊があります。これは大小多くの岩が集まったもので、数万年前にあった、経ヶ岳の山頂付近の大規模な崩壊に伴う「岩屑なだれ」^{がんせつ}によって流れてきたものです。（写真2-15）

※ジオパーク：ユネスコが提唱する学術、文化的に貴重な地質遺産（地層、岩石、断層、火山など）に親しみ、学び、楽しむ場所のことを言う。ユネスコの支援を受けている世界ジオパークネットワークにより、世界各国で推進されており、日本では日本ジオパークネットワークが組織されている。

令和4年(2022)1月28日現在、日本の46地域が、日本ジオパーク委員会によって日本ジオパークに認定されている。

※日本ジオパーク委員会：日本におけるジオパークの公式認定機関。



写真 2-13. 恐竜化石発掘地



写真 2-14. 恐竜化石発掘地 ジオツアー



写真 2-15. 経ヶ岳



写真 2-16. 大矢谷白山神社の巨大岩塊

(3) 気象

勝山市の気象は、一年を通して湿潤で、寒暖の差が大きいという特徴があります。夏は蒸し暑く、冬は寒く、積雪が2mを超えることもある福井県内屈指の豪雪地帯でもあります。“春一番”と呼ばれる春に吹く南東の風は、山々の残雪を溶かし、勝山市の長い冬の終わりをつけ、本格的な春を呼び込みます。その他、季節の変わり目に吹く風（季節風）は周囲の山々に新緑、紅葉、雪化粧といった季節に応じた表情をもたらし、人々は山の表情によって季節の変化を感じとることができます（口絵写真「春」）。

(4) 植生・生態系等

勝山市は動植物の生息地として、非常に多種多様で豊かな生態系を有した自然に恵まれています。

里山には、カタクリ、ミチノクフクジュソウ等の貴重な植物の群生地・自生地があり、標高1,000m以上の山地にはミズバショウやブナの原生林を見ることができます（写真2-17～写真2-19）。また、水辺では多年草の水草で福井県の準絶滅危惧種に選定されているバイカモの群生や、勝山市の至る所で、「市の木」となっているスギがみられ、特にスギの大木が並ぶ平泉寺の菩提林は、歴史的背景とともに特徴的な景観を形成しています。

市街地の身近なところでホタルが見られ、田園ではアカトンボなど現在では少なくなった昆虫も生息し、深山には貴重なイヌワシ、クマタカなどの猛禽類も生息しています（写真2-20）。さらに九頭竜川においてはコチドリやキジ等の鳥がさえずり、アユやアラレガコ、ウグイ等の魚が生息し、ヨシやネコヤナギ等の植物が繁茂するなど、市域全体が生物の宝庫となっています。

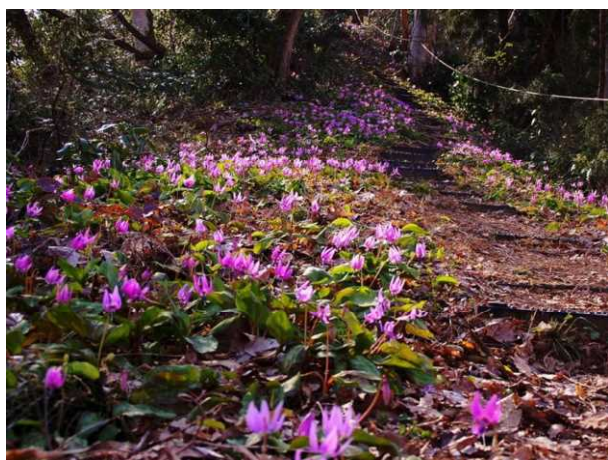


写真 2-17. バンビラインのカタクリ



写真 2-18. 木根橋のミチノクフクジュソウ



写真 2-19. 取立山のミズバショウ



写真 2-20. 岩屋川のホタル

(5) 水辺・滝等

勝山市には九頭竜川流域の一級河川が19河川あり、上流には滝も多く見られ、水辺景観を形成しています(写真2-21)。特に、勝山盆地中央を流れる九頭竜川は、豊かな水量と生態系を有し、雄大な自然景観を形成しています。春の桜、夏のアユ釣り、秋のヨシの原、冬の雪景色と変化し、四季折々の風景で、市民の目を楽しませています。

市内に分布する滝は、火山など大地との関わりが深く、大地の成り立ちを知る自然の素材です。滝の水の姿・形は様々ですが、これら滝は、暑さの厳しい夏に、自然の清涼剤として人々の心を癒してくれています(写真2-22)。下図に19の一級河川及び7つの滝の位置と、ホテルの主な生息地を示します。



写真 2-21. 一級河川 滝波川



写真 2-22. 法恩寺山にある弁ヶ滝



図2-4. 九頭竜川流域の一級河川、滝、山、ホテルの主な生息地 位置図

3. 悠久の時の流れが今に語りかける歴史景観

(1) 市街地の歴史と景観

市域の各地で、縄文時代の生活の跡が確認されており、九頭竜川が形成した河岸段丘上には、旧石器時代から人々の住んでいたことが近年の発掘調査によって明らかになっています。

奈良時代には、越の大徳と呼ばれた泰澄によって白山平泉寺が開かれ、白山信仰の一大拠点として、経済や文化なども大いに高まり栄えました。天正2年(1574)、白山平泉寺は一向一揆勢の焼き討ちにあい、一夜にして焼失しましたが、昭和10年(1935)に国の史跡として指定され、平成元年から始まった発掘調査で、かつての境内の遺構が検出されています。境内一面の美しい苔や菩提林と石畳道などの景観からは、当時の栄華を感じることができます(写真 2-23)。

天正8年(1580)、柴田氏が一向一揆を抑え、現市街地に城を築き、江戸期には松平氏や小笠原氏などが入封し、城下町として栄えました。この時に始まったとされる勝山左義長や年の市は、現在も勝山市を代表する年中行事となっています(写真 2-24)。また、城下町としての面影は、七里壁の石積みや本町通りに数多く残る伝統的な町家などに残っていて、優れた歴史景観として保全・継承されています。

<奈良～戦国時代>

泰澄によって開かれた白山平泉寺は戦国時代のころ隆盛を極め、「六千坊」といわれる僧侶の坊院が建ち並びました。また、近くには商人や職人が集まり、「宗教都市」が形成されました。

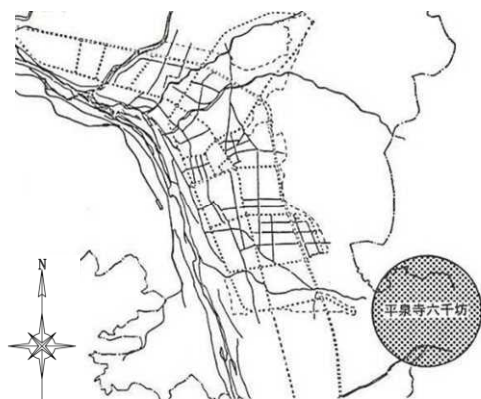


図2-5. 平泉寺六千坊



写真 2-23. 平泉寺白山神社境内

<江戸時代>

1580年に柴田勝安が城(勝山城)を築きました。そこを中心として、袋田町、後町、郡町という現在の中心市街地の原型がつくられました。また小笠原氏入封後、現在の元禄町に武家屋敷町が築かれました。



図2-6. 江戸時代の中心市街地



写真 2-24. 本町通り年の市

明治時代に入り、機業^{きぎょう}が盛んとなりました。明治末期には大規模な工場が造られ、中心市街地の東部に機業町が形成されます。現在も多くの機屋^{はたや}があり、のこぎり屋根の特徴的な工場建築や機織りの音色は勝山市の音の風景景観となっています(写真 2-26)。

この繊維産業の歴史を保存し、後世に伝えるために平成 20 年(2008)に旧機業場を活用して整備された「はたや記念館ゆめおーれ勝山」は、勝山市指定文化財、国の近代化産業遺産※に認定されており、勝山市のまち並みを代表する景観資源となっています(写真 2-25)。

※近代化産業遺産：わが国産業近代化の過程を物語る存在として継承されている数多くの建造物、機械、文書などの「近代化産業遺産」について、経済産業省が、産業史・地域史を軸としたストーリーに取りまとめたもの。

＜大正～昭和期＞

明治期からはじまった勝山の機業は発展を続け、明治末期からは工場も大規模なものとなり、既存の市街地の周辺に立地しはじめました。

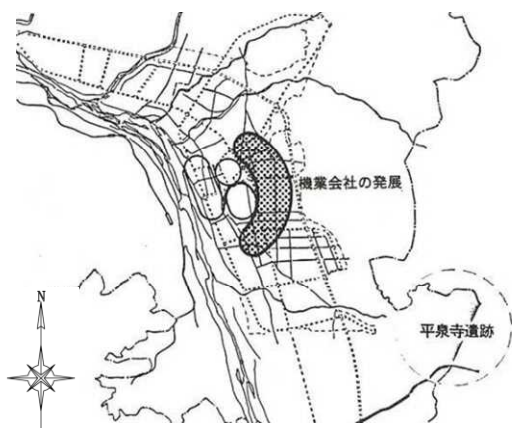


図2-7. 大正～昭和期の工場の立地



写真 2-25. はたや記念館ゆめおーれ勝山

＜近年＞

近年、市街地開発事業(土地区画整理事業等)によって市街地はさらに拡大を続けています。

一方、機業等は郊外へ移転をしたために、跡地がショッピングセンター等にかわっているところもあります。

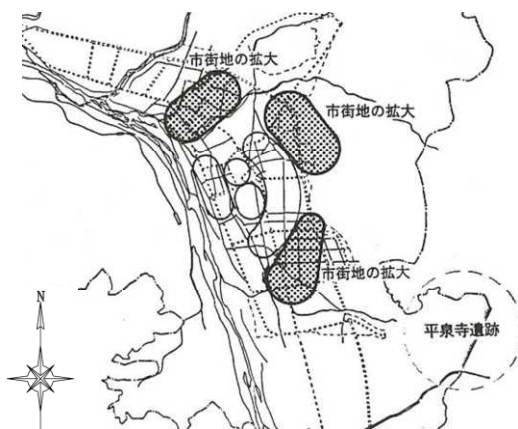


図2-8. 近年の市街地



写真 2-26. 建ち並ぶ繊維工場

(2) 景観に関わる文化財

勝山市内には、参考資料-12に示すように、数多くの文化財があります。これらの文化財も勝山市の貴重な景観資源になっています。

①史跡・名勝

代表的な史跡として、国指定の白山平泉寺旧境内があり、県指定では三室遺跡、市指定では、泰澄母の墓所、勝山藩主小笠原氏廟所、谷の石畳道、畑ヶ塚（伊知地古戦場）、村岡山城跡、旧勝山城下域の七里壁等があげられます（写真 2-27、写真 2-28）。また、指定を受けていませんが、長山公園（講武台跡）等も貴重な史跡です。

名勝としては、国指定の旧玄成院庭園^{きやうげんせいゐんていえん}、県指定の平野氏庭園、市指定の龍谷公園があります。旧玄成院庭園は、室町時代に造られた枯山水の名園で、苔のみどりと静けさが調和した自然景観が形成されています（写真 2-29）。また、龍谷公園は、山の自然を活かしながら公園化され、市街地を眺望できる視点場にもなっています（写真 2-30）。



写真 2-27. 国指定の白山平泉寺旧境内

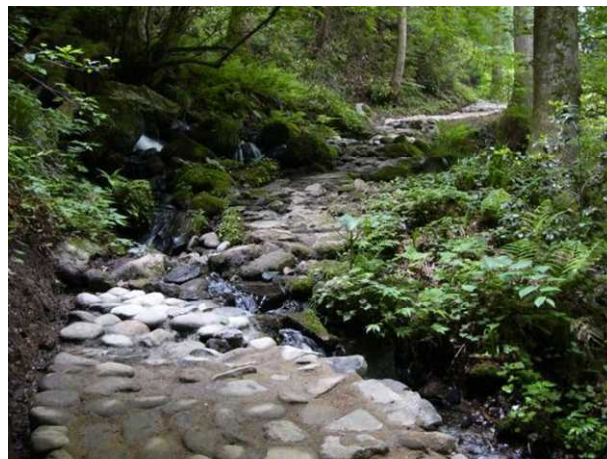


写真 2-28. 谷の石畳道



写真 2-29. 白山平泉寺旧境内にある旧玄成院庭園



写真 2-30. 龍谷公園から見る市街地方面
(図 2-3 眺望景観⑧)

②建造物

歴史的建造物としては、国指定重要文化財の旧木下家住宅があります。江戸時代に建てられた茅葺き「両袖造り」の民家で、周囲の集落景観の重要なポイントになっています(写真 2-31)。

また、市指定の旧勝山藩藩校の成器堂^{せいきどう}の建物や備荒倉^{びこうそう}があります。成器堂の建物は市内の神明神社などに移築保存され、備荒倉は平泉寺町と滝波町に残っています(写真 2-32)。これらも勝山市の貴重な歴史景観といえます。



写真 2-31. 旧木下家住宅



写真 2-32. 平泉寺集落にそのまま残る備荒倉

③旧跡

旧跡としては、江戸時代の舟渡場としてにぎわいをみせていた九頭竜川の筥の渡^{はこわたし}(下荒井)、鵜の島の渡^う(中島)、比島の渡、小舟渡^{こぶなと}などがあります(写真 2-33)。

また、明治時代に下袋田町^{しもふくろだまち}(現本町通り)に建っていた市指定の金灯籠^{かなどうろう}は、現在は毘沙門の境内に移されています。夕方になると火がともされ、常夜灯としてまちのシンボルとなっていました(写真 2-34)。



写真 2-33. 下荒井の筥の渡



写真 2-34. 毘沙門の金灯籠

4. 暮らしの中に伝統文化が息づく優美なまちと集落景観

勝山市の市街地や多くの集落は、下図の地形断面図に示すように、九頭竜川やその流域によって形成された河岸段丘や扇状地に立地しています。他に、山の谷合の斜面を利用して形成された集落もあります。

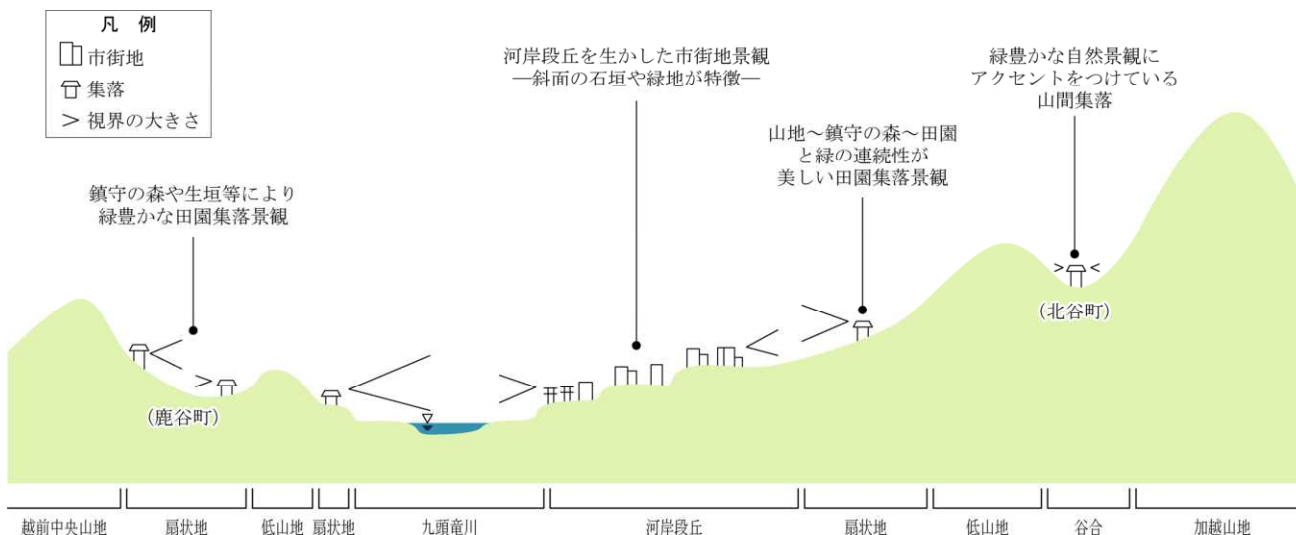


図2-9. まち・集落景観の概要

(1) 旧勝山城下

勝山市の市街地は、九頭竜川の河岸段丘や九頭竜川に注ぎ込む河川によって形成される扇状地に、九頭竜川に向かって緩やかに傾斜しながら、広がりのある市街地を形成しています。

伝統的なまち並み景観が残されている地区として、本町1丁目、2丁目（旧町名：袋田町、郡町、後町、河原町）及び旧牛首街道沿いの沢町や芳野町などがあげられます。これらの地区には、切妻平入瓦葺きの2階正面の両端に袖壁を持つ町家が多く見られ、昔の城下町の景観を形成しています。

高台の元町（旧町名：元禄^{げんろく}）には武家屋敷が残っています。七里壁の台地上の武家地と七里壁の下に広がる下町、それら高低差をつなぐ複数の坂道も勝山市の景観の特性で、情緒豊かな城下町の面影が偲べれます。

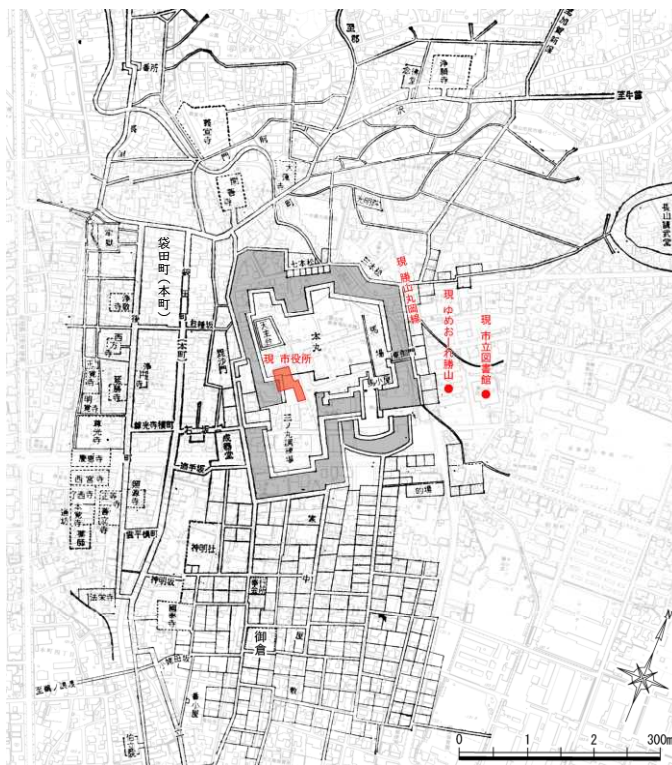


図 2-10. 勝山城下の古地図（江戸時代）

(2) 社寺

勝山市には、数多くの社寺が残され、勝山の歴史景観の要素になっています。神社はどの集落にもあり、特に平泉寺町の平泉寺白山神社、鹿谷町の日吉神社、遅羽町の春日神社、市街地の神明神社などは古い例です。

その一方、寺院は市街地に集まっています。小笠原家歴代藩主の墓がある開善寺や、勝山地方の浄土真宗門徒の信仰の中心である尊光寺などがその代表といえます(写真 2-35、写真 2-36)。また、後町通り以西は旧寺町としての風情が感じられます。



写真 2-35. 開善寺



写真 2-36. 尊光寺

(3) 旧街道

勝山市に残る旧街道としては、市域を東西に走る幹線道路である勝山街道、勝山市から石川県白山市(旧白峰村)に至る牛首道^{うしくびみち}、勝山街道から平泉寺参道につながる平泉寺道、下荒井から小舟渡に至る九頭竜川左岸を走る淡月道^{たんげつみち}等があります。谷集落には牛首道の名残で現在も石畳道が残っています。

そのほかに白山信仰に関わる旧道があります。平泉寺から白山山頂に至る白山禅定道や、坂井市丸岡町にある豊原寺へ通じる岩屋道等です。このような旧道沿いには、道標や示標などの歴史的遺産が点在しています(写真 2-37)。



写真 2-37. 「平せんじ道」と刻まれている道標

(4) 農山村集落

勝山市にある90余りの集落の多くは、九頭竜川流域の扇状地に立地しています。集落ごとに神社を有し、その多くは、緑豊かで大きく成長した樹木によって鎮守の森を形成しています(写真 2-38)。また、集落の周囲に広がる田園は、季節ごとに勝山市らしい色とりどりの風景を演出しています。こうした集落景観は、山並みへの眺望景観の前景になっており重要な景観要素となっています。

この他、北谷町の谷集落や小原集落は、斜面を利用して建てられた特徴的な集落景観を形成しています(写真 2-39)。



写真 2-38. 田園に現れる鎮守の森



写真 2-39. 斜面を利用して形成されている小原集落

(5) 風物詩

勝山市では、1月最終日曜日に行われる「年の市」に始まり、2月の「勝山左義長」、4月の「走りやんこ」や「弁天桜まつり」、8月の「顕如講」や北谷町谷の「はやし込み行列」、「大師山たいまつ登山」と「勝ち山(村岡山)ちょうちん登山」、9月の「神明神社例祭」など、1年を通して地域や季節ごとに様々な行事が開催され、長い年月を経た歴史を感じる故郷の風物詩となっています(写真 2-40、写真 2-43)。



写真 2-40. 勝山左義長



写真 2-41. 勝山左義長の絵行燈



写真 2-42. 勝山左義長どんどこ焼き



写真 2-43. 北谷町谷のはやし込み行列

5. 勝山固有の風景に美しく調和した施設景観

勝山市における主要な施設としては、道路、河川、公園、博物館や図書館等の施設があげられます。これら施設は、地域の景観に与える影響が大きく、景観づくりに重要な役割を担っています。

(1) 道路

主要な道路として、中部縦貫自動車道や国道416号、国道157号、元禄線などがあげられます。中部縦貫自動車道は、高架の道路であることから、白山や越前甲（大日山）を望む眺望景観の絶好の視点場となっています（写真2-44）。また中部縦貫自動車道と市街地を結ぶ県道勝山インター線や、勝山駅と市街地を結ぶ元禄線は、勝山市の玄関口からのアプローチ道路として、勝山らしい景観づくりが求められています。

また、市街地周辺の路線で落葉樹であるアメリカフウやイチョウなどの街路樹が整備されており、街路景観に四季の変化、彩りを添え、それぞれ特徴的な道路景観を創り出しています（写真2-45）。



写真 2-44. 中部縦貫自動車道



写真 2-45. 旭立川線の街路樹（アメリカフウ）

(2) 河川

勝山市は九頭竜川の中流域にあたり、水と緑の豊かな田園都市を形成しています。特に、市街地に隣接し桜づつみを生かした河川公園「弁天緑地」は、豊かな水の流れと自然植生を楽しめる身近な自然景観を提供しています。



写真 2-46. 冬の九頭竜川



写真 2-47. 春の弁天緑地

(3) 都市公園

勝山市には、緑地公園 2 か所、総合公園 2 か所、近隣公園 4 か所、街区公園 23 か所、その他都市公園 2 か所の計 33 か所の都市公園が整備されています。中央公園は、市街地内の緑のオープンスペースとして人が集うだけでなく、遠景の山々と近景の樹林が市街地の景観に変化を与えています(写真 2-48)。かつやま恐竜の森(長尾山総合公園)は、里山を活かした地域振興や文化的拠点の場として市内外の人々が訪れる公園となっています(写真 2-49)。



写真 2-48. 中央公園



写真 2-49. かつやま恐竜の森(長尾山総合公園)

(4) 公共の建築物

公共施設は、規模の大きなものが多く、景観に及ぼす影響も大きくなります。建設に当たっては、周囲の景観と調和した施設とすることが必要です。

平成12年(2000)に開館した福井県立恐竜博物館は、かつやま恐竜の森(長尾山総合公園)の中心的公園施設であり、特に円型(卵型)の形状は遠景の要素としても勝山市を印象付ける施設の一つとなっています。

はたや記念館ゆめおれ勝山は、市街地の歴史的な建物を再利用した市民交流の場として整備され、機織りで栄えた勝山市の歴史を語っています(写真 2-50)。平成 24 年(2012)には白山平泉寺歴史探遊館まほろばや、平成 28 年(2016)にはスポーツの拠点として勝山市体育館ジオアリーナが建設され、新しい勝山市の景観を創っています(写真 2-51)。



写真 2-50. はたや記念館ゆめおれ勝山



写真 2-51. 勝山市体育館ジオアリーナ